

会報

全国重症心身障害児
(者)を守る会
東北ブロック
国立施設部会
会報46号

守る会三原則

- 一、決して争ってはいけない。争いの中に弱い者の生きる場はない。
- 二、親、個人がいかなる主義主張があっても、重症児運動に参加する者は党派を超えること。
- 三、もつとも弱いものを一人ももれなく守る。

仲間

部長 薄衣 寛

新年(元旦)に発生した能登半島大震災には、大変驚かされました。県の震災に合わせた皆様(守る会の仲間)に、心からお見舞い申し上げます。日々が過ぎて状況が分かってくると、被害の大きさに目を奪われました。障害者を預かる施設及び在宅の皆様のご生活及び健康面に心配が募るばかりです。又、翌日には航空機事故が発生し、不安な年明けとなりました。

いつ起こるかかわからない災害に対し、病院や私たちの安全対策は、常日頃から十分なのか考えさせられます。各親の会は、病院の災害対策についてどのようなになっているか、確認する必要があると思います。いつ起こるかかわからない災害に対しては、自分の身の安全と、連絡網の確立により情報

交換や周囲との助けあいを基本として対応していかねばなりません。

さて、令和5年度はコロナが5類に代わり世の中が以前の生活に向けて動き始めました。いまだ予断は許されませんが、各病院の面会状況や守る会等の行事も開催されました。国立施設部会は、6月に総会が開催され、部会員の皆様と直接会うことが出来ました。文書ではなく、生の声を聴くことで意見交換がなされたことが本来の姿だと感じました。

今回は、6月に国立病院機構 北海道・東北グループのトップ(総括長)と面会からスタートしました。令和6年度もお願いしたいと思っております。4年ぶりに実施された、全国大会(広島)や東北ブロック大会(岩手)も会員同士のコミュニケーションを図ることが出来ました。国立施設部会の行事である病院見学は、盛岡医療センターに行ってきました。初めて参加した親の会(さくら会)の役員の協力により、良

い見学会になりました。さくら会の皆様には感謝申し上げます。又、年内にお願いしていた北海道・東北グループとの懇談会も12月に対面で実施されました。懇談会の内容は、次ページを確認してください。

まだ、病院内での行事については動きが遅いですが、私たちは子供たちの日常生活や表情を見て接することで安心することができます。病院で行事に参加し、親(家族)が子供とともに仲間と接する機会がないと情報交換や親御さんの様子を認めることができない状況です。皆様と会えることを楽しみにしております。会員の皆様も、病院・守る会の行事に参加していきましょう。



北海道東北グループと

東北ブロック国立施設部会との

懇談会報告

12月8日左記グループとの懇談会が開催されました。その時の回答書をいただきましたのでご紹介いたします。

全国重症心身障害児者を守る会

東北ブロック国立施設部会

部会長 薄衣寛様

独立行政法人国立病院機構

北海道東北グループ

総括長 高野紀史

要望書への回答について

平素は、国立病院機構の運営等に関し、多大なるご協力を賜り感謝申し上げます。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症への感染対策により、入院患者様と直接会えない日が続いている等、多大なご迷惑をお掛けしておりますが、感染対策には引き続き万全を期してまいります。

さてこの度4年ぶりの開催となりました懇談会において、事前にいただいております要望書に対する回答をさせて頂きましたが、その内容について別紙のとおり送付いたしますので宜しくお願い致します。

要望事項に対する意見 (回答)

(要望事項1)

各施設における専門職(医師・看護師・療育指導室長・児童指導員・保育士・福祉職員等)の適正な配置がなされるよう支援してください。(継続)

(要望1に対する回答)

各専門職員の適正な配置のための確保にむけて、当グループとしても引き続き努力いたします。

特に、医師については、(いわき病院の小児科医師退職など)確保が最も困難な状況が続いておりますが、グループとしては大学訪問を行う等、医師確保につながるような取り組みを継続して行っております。看護師については、病院とグループが一体となり、看護師確保対策検討委員会を開催し、委員会での対策を実行することにより、着実に応募者の確保につなげており、今年度においても不足することがないよう確保に努めております。来年度においても集合形式、WEB形式を含め相当数の就職説明会に参加する予定であり、更なる確保につなげることであります。

福祉職(児童指導員・保育士など)につきましては、関係法令(児童福祉法及び障害者総合支援法)に基づく適正な人員配置基準の遵守はもとより、支援対象となる重

症心身障害児(者)に対する「成長・発達」を視点とした良質な療育の提供と、障害福祉サービスにおける「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」として、「障害福祉サービスプロセスの管理」による適正なサービス提供に努めてまいります。

また、福祉部門としての中核となる「療育指導室」の維持のため、療育指導室長、主任児童指導員、主任保育士等、キャリアアップ人材の育成を図り、役職者の適正な配置と安定した部門組織運営に寄与してまいります。

(要望事項2)

各施設における虐待防止についての現状把握をしていただくと共に適切な対応を指導願います。

(要望書2に対する回答)

虐待防止対策としては、令和3年度報酬改定により示された「障害者虐待防止の更なる推進」により、従業者への研修の実施、虐待防止委員会の設置及び検討結果の従業者への周知徹底、責任者の設置が義務付けられております。

このことにつきましては、研修会等におきましても各施設への施策遵守の徹底を図っております。各施設における対応状況を定期的に検証し、継続して推奨してまいります。

グループにおいても「障がい者虐待防止及び権利擁護に係る研修（今年度は集合型で1月29日に開催）」を開催予定であり、本部においても「虐待防止セミナー」を継続的に開催するなど、管内施設のフオロアップを積極的に推奨しております。しかしながら、様々な対策を以ってしても通報事案件数が増加傾向にあります。管内においては、重大事案に至る事例は発生しておりませんが、虐待防止の徹底（未然に防ぐ、早期発見と速やかな対応）がされるよう、引き続き管内施設の指導に努めてまいります。

（要望事項3）

施設利用者の機能低下を危惧しております。現状維持出来るように対応して頂きたい。

（要望事項3に対する回答）

長期にわたるコロナ禍における感染対策から、従前のように直接病棟でご利用（者）様の様子を確認する機会が減少していたことから、懸念は当然のこととお察しいたします。

クラスター等発生時は、一日も早い収束に向け、必要な感染対策を講じることが優先されましたことはご理解いただきたく存じますが、一時的な対応となります。

今後につきましても、リハビリをはじめとする運動機能療法、摂食機能訓練、口腔ケア、日々の日中活動支援や療育活動などの質・量を高め、残存機能の維持に努めるとともに、支援会議等による多職種連携を図りながら、身体機能維持に資するよう、引き続き努めてまいります。

令和5年12月11日付回答書より

東北ブロック研修会

岩手花巻大会まとめ



副部長 鈴木 正志

テーマ：「コロナ禍における親の思い」
親の思う現在と助言者との意見交換をしました。

分科会は第1分科会（国立施設部会）

第2分科会（在宅 ウェブ）が

中心

第1分科会（国立施設部会）

- 1、病院、親の会及び会員とのコミュニケーションの取り方について、各施設から意見がありました

- 対面面会・窓越し面会・リモート面会
- 対面時間10分〜30分
- 全国守る会大会時に、15分位の面会が妥当という意見があった。
- 面会等のやり方は、各病院の院長判断になっているので施設によって対応が分かれる
- 2、施設における病棟クラスターはほとんどあり。なかつたところもあります。
- この3年間コロナウイルス感染症で、病院施設内を親の会総会会議室として使用できませんでした。
- 5類移行になって、病院施設内が使用できなくなった。

○コロナウイルス感染症になって3年間の療育生活が見えない状況でした。面会が再開されてから子供たちの扱いが悪い方向に向かっていたと感じる保護者もありました。

3、療育指導室長さんを置いていない施設があるので保護者として心配している

（相談窓口）

4、第2分科会（在宅）

今大会初めて「ウェブ」開催しました。

（在宅・施設）

※総合的まとめとして一日も早くコロナ前の病院体制に戻って欲しい。

盛岡医療センター

さくら病棟見学会に参加して

青森病院 工藤寛一

長男哲広(昭和五十年七月生)が、青森病院に令和三年三月三十一日入院しました。それまでは青森県立あすなる療育福祉センターに二十年入所していましたが、胃ろうの手術となり医療的ケアで移ることになりました。

入院直後、コロナ禍で面会の制限などで哲弘の環境が大きく変わり心配しましたが、院側の適切な対応により本人も大きく自立したように思いました。

また見学会に参加させて頂き沢山の仲間の中での活動が、私自身を成長させて頂いています。当日のさくら会の皆様の取り組みの姿勢は、厳しい環境の中で、会のメンバーが心一つの活動をされていることに大変感動を受けました。

それまでも守る会の東北ブロック大会などで今回参加の一部の方とは面識がありましたが、親しく会話ができて国立施設の勉強をしているところあります。

ここ三年間で、家内・幼馴染・学校時代からの友、それぞれの病気でたて続けに失

い、現実の厳しさを受けました。心のバランスが保たれたのは長男の存在が大きい。長男の障害を宣言されてショックから受け容れるまでの心の鍛えは、多くの障害者の仲間に通じているところであります。天地・大自然の事象に、理不尽・不条理と嘆くことなく、これからも会の皆様と一緒に、障害者本人達の輝く笑顔を沢山もらせるようにQOLの向上に改めて努めていく契機の見学会・懇親会にしました。

病院見学会

盛岡さくら病棟 高橋たか子

昨年10月13日盛岡医療センターさくら病棟の見学会が行われ、他県から15名の方が参加されました。東北ブロック大会が花巻市で行なわれたばかりでしたので、とてもお忙しい中の来県だったと思います。病院の説明会の中で成年後見人についての質問が出ましたが、後見人についてはこの2月に病院で保護者を対象に勉強会を開催する予定です。

宿での親睦会・懇談会では、皆さんが今まで活動されてきた施設部会、保護者会の方、病院とのつき合い方など、気軽に話して下さい。今後の活動に生かしていきたいと思いました。又、役員選出の苦労はこの先も続きそうだとため息が出ます。

今回の見学会は不馴れな事もあり緊張もしましたが、至らないことばかりだったと思います。皆様のご協力があつて何とか無事に終わりました。今後は他の施設の見学会に参加し学べたらと思います。本当にありがとうございます。



全国重症心身障害児(者)を守る会
 東北ブロック事務局
 仙台市青葉区五橋二丁目四ノ一
 宮城県重症心身障害児(者)を守る会内
 事務局長 秋元 俊通
 東北ブロック国立施設部会
 事務局長 谷口 悦子